

# JANU

# 21

July 2011

【ジャーナル】 The Japan Association of National Universities

国立大学協会情報誌

Quarterly Report

## 【特集】国立大学——日本の“智”を発信する 智の再生

帯広畜産大学  
岩手大学  
島根大学  
北海道大学  
福島大学  
神戸大学  
豊橋技術科学大学  
信州大学  
富山大学  
滋賀大学

### Voice

水産庁加工流通課課長補佐

上田 勝彦

### 支部通信

北見工業大学／秋田大学  
お茶の水女子大学／横浜国立大学  
静岡大学／京都工芸繊維大学  
鳥取大学／琉球大学

### 今、学生は!

徳島大学 米本剛士

思い付きが形になって評価される  
利用者の反応がやりがいです

### Opinion

三井物産株式会社 代表取締役社長

飯島 彰己



# 飯島 彰己

# Opinion

## 人間として魅力あふれる人材の 育成が将来の日本を強くする

総合商社として世界を相手にグローバルな展開を行う  
創業135年の老舗・三井物産の飯島彰己社長に、  
学問とビジネス、大学における人材育成の在り方などについてお話を伺いました。

海外での活躍を夢見て  
横浜国立大学へ

横浜国立大学は、日本有数の貿易港を抱える国際都市横浜にあり、昔から貿易実務や外国語に力を入れています。若い頃から海外で仕事をしてみたいと思っていた私は、迷わず進学しました。

ゼミでは、企業経営学を専攻し、企業がどういう戦略を持って企業活動を行っているかを研究するために、実際に企業に行き、自ら経験しながら学びました。この時の経験は、三井物産に入社した後も非常に役に立ちましたが、大学時代にリベラルアーツもしっかり勉強していれば、もっと学問に広がりがあったのではな

いかと、今になって後悔しています。  
現代はビジネスにも  
知が求められる時代

三井物産入社後は、現場中心にOJT (On the Job Training) で仕事を覚えていきましたので、大学と接点を持つ必要性は感じませんでした。しかし、社長に就任する約1年前の

2008年に、一橋大学大学院のICS (国際企業戦略研究科) 主催のナレッジフォーラムに1年間通い、経営学者の方々の教えを受けたことによって、自分の知見や経験を、より体系的に整理することができ、いわゆる「暗黙知」を「形式知」化することで広くマネジメントに応用できるようになりました。こうした経験から、それまでは仕事で積み上げた実践がすべてだったのですが、大学や研究機関における「知」をビジネスに応用したり、理論を取り込むことの大切さを感じました。

今では、「知」の世界と我々ビジネスの世界の融合から、お互いにと

飯島 彰己 (いじま まさみ)

三井物産株式会社代表取締役社長。1950年、神奈川県生まれ。1974年に、横浜国立大学経営学部経営学科卒業後、三井物産株式会社に入社。大阪支店審査部、製鋼原料部などを経て、1982年より1年間、海外研修員として南アフリカとイギリスに赴任。1990年より96年まで、英国三井物産に駐在。帰国後、金属・エネルギー総括部長、金属資源本部長などを経て、2009年4月、代表取締役社長に就任。現在に至る。



って有益な「何か」を見いだすため、大学とはいろいろな双方向のコミュニケーションを図っています。その一環として、私自身が教壇に立つことも含め、さまざまな形で海外の大学での講演を行っています。

**大学はあらゆる経験の機会を  
提供する場であって欲しい**

三井物産は創業して135年になりますが、創業以来「世の中に有為な人材を輩出する」という理念を掲げています。「有為な人材」というのは、学業が優秀だとか商売がうまくいっただけではなく、人間としての魅力にあふれ、世の中に貢献できる人材のことです。

そのための研修の一つとして、各分野の第一線で活躍する人たちの話を聞いて、その方の人生観や価値観を学び心を磨く機会を随時設けています。しかし、人間的な魅力は座学で身につくものではなく、多くの経験の蓄積から醸し出されるものです。従って、大学には人間的に魅力のある人材を育てる教育を、ぜひ行って欲しいと思います。国立大学は学業だけでなく、クラブ活動、留学、ボランティア活動、スポーツ、趣味など、社会に出てからでは十分に時間を取ることが難しい、多様な経験ができる機会を、学生たちにより多く与える場であって欲しいのです。

# 心の有り様で人生は変わる 心を磨く教育にもっと力を

仕事や業務上のスキルは社会に出てからいくらでも身につけられます。企業が大学に期待するのはこういった点なのです。

## 心の教育こそが グローバル社会に求められる

更に大学では、思いやりや、倫理観、謙虚さが身につく「心の教育」にも力を入れて欲しいと思います。

世の中のグローバル化が進むと、いろいろな国の人と交流する機会が増え、異文化と接することが多くなります。その時に求められる、異なる価値観を広く受け入れられる視野や度量は、そうした教育によって育まれるからです。

例えば、我が社では入社後5年以内の若手を、必ず海外に勤務させるようにしました。若い社員はたちまちその国の言葉を覚えますし、異文化にもあつという間になじみます。心の教育とは、このように相手を思いやったり、謙虚さが身につくような経験によって、相手の立場を理解するということを学ぶ教育でもあると思います。そのためにはコミュニケーションの時間が非常に重要で、

三井物産では、できるだけお互いの考え方を理解できるような機会を持つようにしています。

海外であっても日本であっても仕事の基本は同じで、「人対人」なのですから、他人を理解できる心を持つていけば、世界中どこにいてもどんな相手とでも仕事はできるはずですよ。

また、こうした強く柔軟性の高い人材を育てることで、彼らがしっかりとした仕事をし、更に次の世代にバトンタッチしていくことで、日本の発展につながっていくと思っております。

## 若い時の吸収力を 生かせるような学生時代を

世の中が内向きだと言われる中、日本の学生の留学比率は下がり続けています。また、就職活動期間の長期化により、本分である勉強はおろかクラブ活動やボランティア活動などに割く時間も減っているようです。

しかし、「鉄は熱いうちに打て」と言う通り、若い時代は吸収力に優れたすばらしい時期です。そんな大切な時期を会社に入るために費やすのは、実に惜しいことです。我



が社には「挑戦と創造」という社風があります。失敗が許される学生時代こそ、さまざまな経験を通じて「Try and error」を繰り返して何かを得て欲しいと思います。

学生が本来やるべきことをできない現状は、将来の日本の競争力にボディーブローのように効いてくるでしょう。就職活動が学生のそうした

機会を阻害しているのであれば、企業は、学生が本来の学生生活に専念できる環境を取り戻す方法を考えなければいけないと思います。

私は学生の皆さんには、本来与えられるべき自由な時間と恵まれた環境の中で多くの経験をして、自らの可能性を広げられるような学生時代をぜひとも送って欲しいと思います。

**JANU Quarterly Report Vol.21** July 2011

編集・発行／一般社団法人 国立大学協会  
〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-1-2  
TEL:03-4212-3506

表紙：三井物産株式会社 代表取締役社長  
飯島彰己

撮影：東京藝術大学 美術学部准教授  
鈴木理策



一般社団法人 国立大学協会

The Japan Association of National Universities

<http://www.janu.jp/>